

JSCA九州 1/1版

発行・日本建築構造技術者協会九州支部

粕屋郡志免町別府北4丁目-2-1

TEL 092-627-1388 / FAX 092-627-1389

Web Site : <http://jscakyushu.jp/>

E-mail : info@jscakyushu.jp

2018年巻頭言



2018年新年のご挨拶

2018年 1月 JSCA九州支部長 原 英基

JSCA九州支部会員の皆様に謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

熊本地震から1年8カ月が過ぎ、熊本復興のシンボルとして熊本城天守閣の復旧整備工事が始まっています。石垣を含めた全体復旧には20年以上を要するともいわれている中、4年程での改修復旧が予定されているようです。足元の一般建物の復旧も徐々に進んでいきますが、熊本地区会の意見を聞きながら九州支部として協力できる事があれば皆さんの力を得て実施していきたいと考えています。

昨年6月の総会において支部長に選任いただいてから半年が過ぎました。できることを着実に進めていきたいとの思いで、所信で述べた3点のことを優先事項として支部運営を進めた半年でした。

“持続可能な支部組織の確立” 新たに加わっていただいた技術委員会の部会長や、新設した技術部会は、皆さんの積極的な活動と周囲のサポートで順調に滑り出しました。

“災害に対応できる危機管理体制の整備” 震災対応マニュアルの作成が完了し一部自治体への配布も行いました。九州管内建築関連団体による2回目の懇談会が開催され危機管理体制の整備について意見交換がなされ、JSCAもオブザーバー参加をしました。

“九州ネットワークの構築” 念願の九州支部会員・賛助会員名簿の発行をすることができ、また賛助会の皆さんとの新たな交流の場を設けることができました。10社を超える新たな賛助会員の入会もありました。

どれもまだ始まったばかりですが、今年はこれらを継続・定着させる1年にしたいと考えています。

年の初めに来年のことで鬼に笑われますが、2019年にJSCAは法人化30周年を迎えます。25周年は大分で迎え大いに盛り上がりました。この時に九州デザイン発表会もスタートを切りました。今やデザイン発表会はメインイベントになりつつあります。さらなる広がりを感じながら30周年に向けた準備も進めていきたいと思っています。

九州は食べ物も豊富でおいしく、海あり山あり温泉あり旨い酒あり、支部のまとまりのよさも色々な方からうらやましがられます。源は自然の恵みと会員一人ひとりのパワーに他なりません。今年も全九州一体となって活発な活動ができるよう皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

新年を迎えて



副支部長 大塚 真裕

新年明けましておめでとうございます。また、一昨年熊本地震、昨年九州北部豪雨で被災された皆さまには改めて謹んでお見舞いを申し上げますとともに被災地における一日も早い復旧・復興を心よりお祈り申し上げます。

建設業を取り巻く環境はここ数年の好景気に支えられ堅調に推移しており、皆様方におかれましては、毎日お忙しい日々をお過ごしのことと思います。

さて、私ごとで恐縮ですが、今年は還暦を迎える年となりました。初心に戻り“構造設計”という仕事に改めて向き合っていきたいと考えています。

これまで、JSCAの皆様とともに活動し、また、交流を深めていき共に成長させて頂きました。今後はこれまでの経験を生かし、若手の方々へのアドバイス等ができる組織を構築し、微力ながら構造技術者の育成に力を注げればと思っています。

昨年も年頭挨拶で述べましたが、構造設計において重要なことはバランスの良い“構造計画”とそれを実現する“ディテール”だと思います。また、その“感性”を身に着けることも大切であると思います。今後とも一緒にその技を磨いて行きましょう。

今年も会員各位のご支援を宜しくお願い致します。

2018



副支部長 今林 光秀

謹んで新年のご挨拶申し上げます。

昨年春より副支部長として活動させて頂き、これまで以上に JSCA 九州に深く関わっている事大変うれしく感じております。昨年は、6月の長崎構造展や7月に沖縄での学生イベントおよび宮崎での支部役員会、そして10月に佐賀での空間構造の話と九州各県の方々とも楽しく交流できました。改めましてお世話になりました皆様方へお礼申し上げます。

九州支部では各委員会・部会および各地区会ともに皆さんが活発に活動されており、さらに総会や役員会でも和気あいあいとした雰囲気、良好な意見交換がなされており、本部や他支部も羨む ALL-Kyushu な集まりと感じます。新年の 2018 年は副支部長として 2 年目となり、さらに元気に皆さんと活動させて頂きたくので、何卒宜しくお願い致します。

世間では 2020 年と言えば東京オリンピックの年になりますが、JSCA 構造デザイン発表会の支部開催の年にもあたります。まだ 2020 年の開催場所などは決まっていますが、九州支部で開催ができないかを前向きに検討して行きたいと考えております。これまでの支部開催では、関西支部（2012 年、2016 年）と中部支部（2014 年、2018 年）にて 2 回ずつ行われています。大相撲でも 3 月大阪場所・7 月名古屋場所・11 月九州場所とあるように、JSCA 構造デザイン発表会を九州支部で開催できれば素晴らしい事だと思っています。

技術委員会



技術委員長

(有)広岡建築事務所 松下 淳一

皆様、新年あけましておめでとうございます。

昨年は日本企業・機関の品質管理やコンプライアンスに関する不祥事が多く発覚し、信頼性が揺らいだ年でした。やはり社会を騒がせた耐震偽装問題を契機にして設けられた構造計算適合性判定制度が始まり 10 年が経過しました。労力を要しましたがピアチェックにより構造性能の信頼を確保してきた側面があるものと思います。

計算・設計・現場施工・監理・検査等の流れで完成される建築物の性能や信頼確保のために多くの方が関わる協働作業となっていますので、私自身は技術者として関われることに集中し信頼確保に努めようと再認識いたしました。

各部会では様々な活動が献身的に行われています。皆様と情報を共有して地域の状況を勘案しながら、進めることができると考えています。構造性能向上・信頼確保に資するものと思いますので、是非ご参加ください。それが構造技術者の社会的責務を全うするための一助となれば幸いです。皆様のご協力・ご支援を今年もどうぞお願い申し上げます。

設計規準系部会



設計規準系部会長

(株)織本構造設計 都筑 清

新年あけましておめでとうございます。

昨年より設計規準系部会長を担当させていただくことになりました。宜しく願い申しあげます。初仕事として昨年に、熊本地震でも被害が多く報告された非構造部材に関する講習会を（一財）福岡県建築住宅センター様、九州住宅保証（株）様のご協力のもと開催させて頂きました。不慣れな中無事に開催できたのは、関係者様及び参加して頂いた会員皆様のおかげであります。ありがとうございました。

一昨年の熊本地震、昨年の九州北部豪雨と、九州では多くの被害が続発しており、自然災害への社会的な備えはまだまだ充分といえません。建築に関する基準も随時見直し・追加が続けられています。直近でも積雪屋根崩落事故にまつわる積雪荷重の告示改正が発表されましたのでご注意ください。

今後も会員皆様のお役に立てる講習会等の情報発信を続けていきますので、ご協力の程宜しくお願いいたします。

最後に、弊社顧問であり J S C A 九州顧問でもある浜田敬二が昨年逝去致しました。J S C A 九州でも永らく活動させていただき、懇意にして頂いた会員の皆様方にはこの場を借りてお礼申し上げます。

応答制御設計部会



応答制御設計部会長

エス・エー・アイ構造設計(株) 上野 敏範

皆様、新年明けましておめでとうございます。

九州でも地震を身近に感じる機会が増えてきており、社会的に免震構造や制振構造への関心も高まっております。

昨年より活動を始めた新しい応答制御設計部会では、このような免震構造や制振構造を、特殊なものとするのではなく、一般化することを目標に活動していきたいと考えています。

昨年は、活動のスタートとして、福岡大学の高山教授、吉澤教授にご講演いただきました。また、12月には、免震体験車の試乗会を実施し、ご参加の皆様にご参加いただき、ありがとうございます。

本年は、実務に役立つ実践的な内容の勉強会、見学会、また、賛助会の免震や制振のデバイスメーカーとの技術交流会などを計画したいと考えております。

皆様のご理解とご協力、どうぞ宜しくお願い致します。

基礎地盤系部会



基礎地盤系部会長

イン・オリジン一級一級建築士事務所 小林 弘典

一昨年の熊本地震の復興もままならない中、昨年は九州豪雨がありました。課題は山積みですが、一方で経済は上向きで、建設業界も特に九州地区は元気が良いようです。ここ数年、影響の大きい出来事が続いています。我々の柔軟性と力量が試されているのかもしれませんが。

自然災害、人災、怪我、家族の病気、友人との喧嘩、仕事でのトラブルなどが無かったのであれば、それは公私において感謝しなければならないことだと感じます。

構造設計は「何事もない事」ことが当たり前求められる仕事です。そのために我々は、見えないもの、未来の現象に洞察力を働かせます。熊本地震での阿蘇大橋の崩落は、橋脚を支える地盤が2m以上動き、アーチが圧壊したことが原因だったとのこと。足元が強固で不動であることを疑うことができたでしょうか？ 自問自答しました。自然がもたらす現象は受け入れるしかありませんが、後から解ることを、せめて忘れないでいることは努力次第で出来るかもしれませんね。基礎地盤系部会の活動がその一助となるのであれば幸いです。今年は、何事もない一年でありますように。

鉄筋コンクリート系部会



鉄筋コンクリート系部会長

(株)大林組 伊藤 義弘

新年明けましておめでとうございます。

昨年は、国内経済は穏やかな回復基調を継続しており、建設需要が高まりを見せましたが、その一方で、相次ぐ品質（検査）データの改ざん等の「品質偽装」により「日本のものづくり」のあり方があらためて問われた1年でした。

昨年度の鉄筋コンクリート系部会の活動として、鉄筋継手勉強会（7月）、RC造柱梁接合部の最前線・構造関係基準解説書のQ&A講習会（10月）を開催し、平成30年1月に連結制振構造・Pca工法を採用した超高層マンションの現場見学会の開催を予定しています。

本年度は、特に、昨今の労務不足に対する対策として採用されているPca工法などの省力化工法関連及び他部会と協働しハイブリッド構造等の勉強会を開催したいと考えております。鉄筋コンクリート系部会として他の部会と協力し、会員皆様の構造設計者としての技術力アップ、技術研鑽の場を提供していきたいと考えておりますので、今後の要望も含めて、会員皆様のご協力をお願い致します。

鉄骨系部会



鉄骨系部会長

鹿島建設(株) 尾宮 洋一

今年は戌年です。ネットで探すと「戌」は最終的な結実の年だそうです。来年の「亥」は次の新しい12年のサイクルに向けてすでに助走を切っている状態という扱いなので、「戌」が実質的な最終の年ということですが。昨年は、アメリカでトランプ大統領が、ツイートしまくり混乱の世界状況でした。一方、国内は小池旋風がバッシングに変わり、政治的柱荒れましたが、建築業界は順風状態だったと思います。鉄骨部会では昨年6月と12月、新北九州市立八幡病院の現場見学会を開催し、各々30名を超える参加者を迎えることが出来ました。免震装置や鉄骨建方等、事務所で業務されている方や学生さんも参加して頂き、日ごろとは違った仕事場で知見とリフレッシュできたかと思えます。

本年2月9日、「鉄を極める」という題名で①鉄元素から鋼材までその魅力、②溶接接合について、福岡で講習会を開催します。深い知見を基に業務に役立つこと請け合いです。是非参加をご検討下さい。今年も3月末には、JSCA九州支部に対し多くの支援を頂いた北九州市立大学の津田教授、西日本工業大学の平井教授が、研究と教育の第一線から退かれます。鉄骨系の先生が少なくなりつつあり、大学との協力関係も新しい局面に向けて準備を始めなければならないと思います。鉄骨部会は、会員各自が抱える鉄骨関連の疑問や問題を解決する場として、活用して頂ければと考えます。要望や意見をお聞かせください。

本年も会員のみならず、健康には充分気をつけて、実りある1年を過ごしてください。

木質系部会



木質系部会長

(株)川崎構造設計 川崎 薫

あけましておめでとうございます。

一昨年の4月には、熊本地震が発生し、その後始末に昨年は忙しい一年となられた方も多かったのではないのでしょうか。地震はいつどこで起きるかわかりません。

極めて稀な大地震が来ても倒壊せず、人命を守る事こそ構造設計者の使命とし業務を遂行していく覚悟が必要だと思えます。

木質系部会の昨年までの主な活動として年6回程の勉強会を開き、JSCA 会員外の建築、行政、教育、司法関係の方々に広く門戸を開放して行ってまいりました。

現在では、参加者の多数は非 JSCA 会員となっており、その事を踏まえ来年度からはこの木質系部会の勉強会は JSCA から独立して活動する事としました。

但し、勉強会の開催情報は JSCA 会員の皆様にも行き届く様にします。

最近では、新木質材として CLT、W・ALC が、構造体として4階建て以上の大規模木造建築の情報を目にする事が増えてきました。新しい技術が次々と出てきています。

これからも、木質系部会としてこれら最新情報や免震、制震構造等の技術提供を行ってまいります。多数のご参加をお待ちしております。

本年もよろしくお願い致します。

特殊構造部会



特殊構造部会長

(株)ピーエス三菱 石井 孝幸

明けましておめでとうございます。

昨年は、部会の改名（改名前 特殊(PC)系部会）と部会長引き継ぎ（前部会長 内山執樹）が同時に行われた新たな出発の1年でした。名称は変わりましたが、部会の活動は変わらず、プレストレストコンクリート（PC）構造やプレキャスト（PCa）構法に関する情報の提供を中心に行いました。構造建物の設計を経験してみたい初学者や若手の実務者向けに「PC 構造の設計 勉強会」と PCa 柱梁部材に鋼管ブレース・制震ダンパを組み合わせた「耐震補強の現場見学会」を開催することができました。今後の課題として他の部会に属さない特殊な構法、構造をテーマに広げて行ければと考えています。

本年もよろしくお願ひいたします。

耐震改修部会



耐震改修部会長

能勢建築構造研究所(株)

奥野 賢二

あけましておめでとうございます。

一昨年の熊本地震からの復興も終わらないうちに昨年は朝倉地区の大雨により大きな被害もたらされました。人間の作り出した建造物等が自然の猛威に対してはいとも脆く破壊される姿を見て構造的技術者として若干の無力感を感じさせられます。地球が地震の活動期にあるのか頻りに地震発生ニュースを目にしますが古い建物の耐震化は未だながら道半ばの感が致します。建物本体の耐震化の技術につきましては種々な方法が開発されまたその工法が実際に採用されておりますが建物の二次部材の耐震化についてはこれからのような気が致します。

改修部会におきましては新しい耐震改修技術の紹介、特に近年の地震において人命を含む大きな被害をもたらす可能性の有る天井についての勉強会等を開催するつもりでおりますので皆さまのご協力をよろしくお願い致します。

会員委員会



会員委員長

(有)Y's 構造

横山 英一

新年明けましておめでとうございます。

皆様におかれましてはつつがなく新しい年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年の6月より会員委員長を引き継ぎ、至らない点多々あるなか、皆様のお力添えにより、何とか昨年の活動を進めることができました。

昨年は、初の試みとして「JSCA九州支部会員・JSCA九州支部賛助会員名簿」を作成し、九州支部の会員の皆様、賛助会員の皆様へ配布いたしました。今後の皆様の活動の一助となれば幸いです。

また賛助会員に関しましては、2016年以前からの継続未確認先を含めまして17社の純増となりました。これも会員の皆様のご協力あつてのことと心より感謝申し上げます。

本年も賛助会員の増強に努めるとともに、会員・賛助会員の皆様の交流促進を図る取り組みを進めていきたいと考えております。

本年も、何卒宜しく願いいたします。

青年部会



青年部会長

(株)構造FACTORY 重松 正幸

JSCA九州会員の皆様、そして青年部会の皆様、明けましておめでとうございます。本年もよろしくお祈りいたします。

青年部会長を今林さんから引き継ぎ、早5年が経過しました。様々な活動が若手会員の横の繋がりを形成し、その繋がりが徐々に縦へと広がっていることを実感しています。

2020年に向かって経済面でやや浮き足だったこの国は、その後に若手技術者が不足することに真剣に目を向けなければなりません。

今後のJSCA九州は、若手構造技術者の確保と育成や技術伝承が課題であると思っています。青年部会では独自に勉強会を開催し、若手同士で構造設計に対する意見交換の場を設けます。更には、熟練の先輩方を部会にお招きしベテランと若手の交流の場も作りたいと思っています。私自身は、青年部会と支部役員両方の立場でそれらを実行していきたいと思っています。

今年も5月の支部総会後に開催される恒例となった「九州構造デザイン発表会」。構造デザイン発表会ワーキングチームの一員としては、支部会員の皆様が「構造デザイン」に接する機会を増やせるように発表会以外に講演なども企画したいと思っています。

最後にJSCA九州会員の皆様と青年部会の皆様の健康とより一層のご活躍をお祈りして、新年のご挨拶とさせていただきます。

なでしこ会



なでしこ部会長

清水建設(株) 浅田 正子

あけましておめでとうございます。

新しい年を迎え、昨年1年を振り返ってみると、2017年は「働き方改革」の掛け声の下、各社・各人がこれまでの慣習を変えていくことを求められた1年でした。実際の労働時間の短縮や時短勤務・在宅勤務など、個人に合わせた働き方が可能になってくることは、労働人口の増加につながり、その働き方が定着していくことが急がれていると思います。

では、構造設計者としての働き方は現実的に変化してきているのでしょうか。誰かに負担が集中してしまうことなく、皆がバランスの取れた働き方になっているのでしょうか。今後の課題として、労働力のコントロールを管理する側の方たちに委ねられる部分があるように感じています。

なでしこ会には、このような改革以前から各人が自らの働き方を考え、できることをやりながら構造設計に携わっているメンバーも多く、もちろんその周りには理解者・協力者がいると思います。皆さんには周りの方への感謝を忘れず、今の流れに乗って、さらに活躍の場を広げて頂きたいと思っています。昨年のなでしこ会の活動は、情報交換に終始してしまいましたので、新年度には新たに活発な活動ができるよう、準備していきたいと思っています。本年も皆様のご協力とご支援に感謝しながら活動を続けてまいります。宜しくお祈り致します。

広報委員会



広報委員長

オリエンタル白石㈱ 福田 顕議

新年明けましておめでとうございます。昨年より広報委員会が設置され、委員長を拝命致しました。広報委員会の活動としては、旧編集委員会と同じく、メール版の配信やホームページの更新が主な内容です。2018年も最初の仕事は、このメール版新春号の編集と配信です（笑）。広報という名の通り、JSCA九州支部の魅力が会員その他一般の方々にも、広くわかりやすくお知らせ出来ればと考えております。

昨年より賛助会員も続々と増え、会員企業のホームページを紹介するコーナーも充実してまいりました。また、企業PRコーナーも新設されましたので、合わせてご覧頂ければ幸いです。充実した広報のため、本年も皆様にご協力頂くこともあるかと思いますが、何卒お願い申し上げます。

<http://jscakyushu.jp/>

事務局



事務局長

㈱GEN 設計 石松 國彦

皆様、新年明けましておめでとうございます。

今年度は九州支部におきましては、九州支部支部長に新しく原 英基氏が就任されました。

それと共に、JSCA九州支部組織も近年の建築構法・工種の多様化を鑑み、応答制御設計部会をはじめとして、新しい部会の新設・旧部会の統合を行う組織改革がなされました。各部会の人員構成でも、若い方々に部会長になっていただき、経験者が補佐として活動をまとめていける新たなメンバー構成となっております。

H28年度の活動も、支部部会での活動が年47回程度、支部地区会全体で年54回程度

他団体交流が年30回程度、機関紙の発行年3回など、活動もさらに活発になっております。

建築構造技術者協会のJSCA九州支部として、会員の皆様、賛助会の皆様のご協力をお願いしつつ、事務局としましても、会員の皆様への円滑な情報伝達を行うべく活動していきたいと思っております。会員外の皆様も活動をご覧になられた方々には新規会員として入会頂ければ幸いです。

今年も、会員の皆様、支部幹事・地区幹事の皆様・賛助会員の皆様よろしく申し上げます。

地区会



北九州地区会幹事

(株)松尾設計 牛尾 忠信

明けましておめでとうございます。北九州地区会の幹事を引き継ぎ3年目となります。北九州地区会として、昨年11月に「北九州市の産学官が連携した第8回建築構造系講演会」を主催しました。北九州市の大学関係の先生及び学生、北九州市、その他一般で総勢110名程となりました。講演は、北九州市指導部より北九州の耐震対策について、次に西日本工業大学の平井教授より高力ボルト接合概説として、各種高力ボルトに関する説明、摩擦接合、引張接合、遅れ破壊、施工方法、超高強度高力ボルトなど多岐にわたり解説頂きました。また、日建設計、中川様、山田様より、北九州市立総合医療センター改築工事についての説明に加え、日建設計で設計されたその他の物件の説明を頂きました。その後、鹿島建設、尾宮様より、新北九州市立八幡病院移転改築工事についての説明と、その他の物件について説明を頂きました。今回は、ご講演頂く方とこれまで以上に密に調整を行い、特に学生目線をお願いしたことが、結果として非常に解りやすい講演になったと思っています。質疑応答でも、非常に活発な質問を頂きました。幹事として3年目が終わろうとしています、この1/11には北九州建築六団体の賀詞交歓会の幹事を行います。

今年の目標も昨年同様、「JSCA 北九州地区会の会員数を増やしたい、産学官のほかにも何か」と考えています。個人としては、昨年2月の北九州マラソンでは、6時間以内にゴールできました。今年は抽選の結果落選しましたので応援をします。健康管理、体力維持を目的にジョギングしたいと思っていますがこの半年サボっています。これではいけない！本年も宜しく願いいたします。



佐賀地区会幹事

マルトラ建築事務所 豆田 和也

皆様、新年明けましておめでとうございます。

一昨年は熊本地震、昨年は九州北部豪雨とこのところ自然災害が続いて起きています。私が住んでいる地域は、豪雨被害が大きかった朝倉市と同様に山間部ですので他人事とは思えませんでした。

昨年の佐賀地区会では、少ない回数ではありますが、勉強会を開催いたしました。渡邊竜一氏に「構造デザイン」、(株)日本設計の今林氏に「鉄骨の構造デザイン・構造設計」についてご講演の為に、来佐いただき、有意義な勉強会が開催できました。ご講演頂いた諸先生方、ご協力頂きました皆様に感謝申し上げます。

最近の建築業界の動向として、BIMの推進が上げられますが、個人事務所ではどのようにBIMを活用していくかという利用方法を考えている段階かと思えます。今後環境整備がより進んでいくと活用の幅も広がり、移行していくのは明白です。またBIMにより、建築がデータ化されることで、AIによる処理が出来るようになり、建築に対する設計者の関わり方も大きく異なってくるように感じています。

最後になりましたが、JSCA九州の皆様、健康には十分留意され、構造設計全体の一助になれるようお互い頑張りましょう。



長崎地区会幹事

(株)オカザキ設計室 岡崎 克喜

新年あけましておめでとうございます。

昨年は6月に「第4回建築構造展」を開催し、九州支部および企業、団体、学校の皆様の協力のもと大盛況のうちに終了することができました。また前夜祭として開催した講演会も多くの方に参加していただき、一年間準備した苦勞が報われた展示会だったと思います。関係者の皆様本当にありがとうございました。

また、年1回の佐世保例会では他団体の皆様にも呼びかけ、鉄筋圧接について模擬実演も含めて勉強させていただきました。長崎県鉄構工業会との懇談会は溶融亜鉛めっき工場見学やファブとの意見交換会を行いました。長崎地区会構造デザイン発表会では発表者が徐々に増え、若い方の活躍を期待しております。このように徐々にではありますが、年間行事も定着し、活発な活動ができたものと思っております。

今年は会員の皆様から講演会、研修旅行が提案され、すでに計画中のものもあり、地区会会員が丸となって活動していきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。最後に会員の皆様のご健勝とご多幸をお祈りいたします。



熊本地区会幹事

(有)かいしん設計室 甲斐 信親

新年あけましておめでとうございます。

一昨年4月の「熊本地震」から早いもので1年8か月ほど経ちました。当時の皆様からの多大なご支援ご協力大変感謝しています。現在一部甚大な被害を受けた地域を除き、熊本の街は徐々に普段の街に戻りつつあります。公費解体もほぼ終わり、自費及び補助金等を活用し新しい建物が徐々に増えてきている状況です。熊本地区会員のみんなもこれまでは緊急度の高い応急的対応が多かったと思いますが、これからは熊本の将来を見据え質の高い安全安心な建物を造るんだという思いで日々がんばっていることと思います。これからもご支援ご協力よろしくお祈りいたします。

昨年は9月に2日間に分けて木造関係の講習会を実施しました。これからの地区会目標としては若手の構造設計者増を目指しているところですが、その中で木造構造設計者の普及促進は一つの方法ではと考えています。また熊本には構造関係団体のNPO法人「ケーピック」という集まりがありますが、これからは今以上に連携していけないかとも考えています。これからも講習会や見学会を多く企画し、熊本地区会の活動に尽力し多方面の方に構造設計者をアピールしていきたいと考えています。

本年もよろしくお祈りいたします。



大分地区会幹事

阿部設計構造事務所 阿部 知光

あけましておめでとうございます。昨年大分県では7月の九州北部豪雨と、9月の台風18号による県南部の被害と大きな自然災害に見舞われました。今年は平穏な年であって欲しいと願っています。昨年の大分地区会の活動は現場見学会、講習会の共催、勉強会等ある程度の活動ができたのではと思っています。しかし、私たち建築構造技術者を取り巻く環境は年々厳しさを増しているのが実状です。建築構造に対する建築主の高度な要求や、確認申請業務の煩雑さ等がその具体例です。さらに、私達建築構造技術者の人員不足の問題も発生してきております。それらの問題を解決するためには、各々の研鑽が必要であります。それに加え私はJSCA会員間の情報交換を行い、それらの問題に対処するべきではないかと考えています。そういった意味から今年はさらに会員相互の交流を図りその中での勉強会等を通じて技術の向上を目指す必要があると思います。今年は昨年以上にJSCA大分地区会の活動を活発に行い、会員皆さんの設計業務が順調に完了するように、私も微力ではありますが会員の皆様とともに頑張っていきたいと思っております。



宮崎地区会幹事

(有)大東建築設計事務所 濱砂 英雄

新年明けましておめでとうございます。

昨年中は大変お世話になりありがとうございました。

昨年は、北朝鮮と米国の核ミサイル問題が激化し、どうなることかと心配の1年ではありましたが、韓国で開催の平昌冬季オリンピックに北朝鮮の参加が報じられ、少しは緊迫の度が下がるのでしょうか。皆様にとって今年が平和で、幸多かりし1年であります様お祈り申し上げます。

さて、今年も建築に目を向ければ、東京オリンピック施設の着工や地震災害の復興等、好景気の話も聞こえてきますが、地方では相変わらず資材不足や人材不足が問題となっており、特に技術者の高齢化やリタイアにより若手の技術者不足が、これからの大きな問題となっていく気がします。

地方では若手の育成も、遠方での講習会や研修会に時間や費用の面で、中々参加できないのが現状であります。

宮崎地区会では、こうした中今年も建築構造設計に関する知識と技術の向上を図ることを目的とし、年数回の研修会、各種建築関連団体との共催で講習会や勉強会を積極的に開催し、若手建築構造設計者の育成、技術向上に努めたいと考えております。JSCA各委員会の皆様、そして賛助会の皆様のご協力をお願い致します。

今年もよろしくお願い致します。



鹿児島地区会幹事

(有)絵夢建築設計工房 上永瀬 守

新年明けましておめでとうございます。今年の、北部九州の豪雨など災害の爪後は未だに復旧できておりません。自然災害の脅威を感じております。熊本・大分地震の復旧も忸怩たるところがあります。地区会活動を振り返ってみますと3月の現場見学会及びIOTの勉強会、鉄骨骨組みのコスト評価と最適化セミナー、7月当初の鉄鋼工業会との勉強会、7月下旬の支部役員会 in 宮崎、懇親会へ参加(10人)しました。10月のすまいと建築展では台風の影響で3日間を2日目で切り上げもありました。計5回の役員会を行っております。今年は鹿児島での地区役員会が7月下旬に予定されております。講演会も同時に開催が決定されており、会場及び講師の先生からの内諾を戴いております。多くの会員に参加戴きたく準備中です。地区会会員数も微増ではありますが増えております。

構造設計者同士の絆を深め、社会の要求に対応できるよう連携を築こうと思っています。本年も宜しくお願い致します。



沖縄地区会幹事

株式会社 ケイ・ツー設計 小波津 和也

明けましておめでとうございます。2018年が皆様にとって真に良い年となることを心より祈念しています。去年は代表幹事に就任した初年度であり、直前代表幹事とのリレーにて当地区会の運営となる年となりました。地区会の中核となる活動事業は、会員の質と技術の向上に努める自己研鑽事業、若手技術者育成事業、技術協力事業の3つが大きな活動事業としています。昨年においては、自己研鑽事業として①「鉄骨置き屋根体育館の地震被害事例と、その解析」講習会、②場所打ち杭現場見学会、③振動解析セミナー「耐震設計の実際」勉強会、④『最近の構造適合性判定についての質疑事項についての勉強会』、⑤JSCA沖縄地区会デザイン発表会、若手技術者育成事業として、琉球大学及び沖縄職業能力開発大学校学生を対象に「舛田洋子講演会&パネルディスカッション」と講習会などを行いました。自己研鑽事業が多くを占めています。

今年においては昨年同様、構造設計における創造力・実行力を鍛える訓練としての自己研鑽を主体に活動していきたいと思っております。